

## “抗菌薬適正使用を支援する” チームがいます！

耐性菌の出現は世界的脅威であり、2016年政府が発表した薬剤耐性（AMR）対策アクションプランでは、耐性菌対策として抗菌薬適正使用支援（AS）の実践が推奨されています。2018年度診療報酬改定においては、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の組織を含む抗菌薬の適正使用を支援する体制の評価にかかる加算が新設されました。当センターにおいても、同年度からASTを組織し日々活動していますので、その取り組みを紹介します。

### ●ASってなに？

ASとは、主治医が抗菌薬を使用する際、個々の患者に対して最大限の治療効果を導くと同時に、有害事象をできるだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できるように、医師や看護師、臨床検査技師、薬剤師のチームで協力して支援を行うことをいいます。

安易な抗菌薬の使用は耐性菌を発生させる原因となるため、ASの推進は耐性菌の出現を防ぎ、医療コスト削減にもつながることが報告されています。



### ●がんセンターでの活動について

感染症治療の早期からモニタリングを行うために、チームカンファレンスを毎日実施しています。その中で、薬剤師は薬の専門家としてASの中核を担っており、以下のような介入により抗菌薬治療の最適化を図っています。

- ・ 抗菌薬使用に対するフィードバック  
 抗菌薬の選択、中止・変更  
 用法用量の適正化（TDM、PK/PD理論活用）
- ・ 特定抗菌薬使用の届出制  
 抗MRSA薬、カルバペネム系薬
- ・ 採用抗菌薬の適正化  
 経口第3世代セフェム系薬の中止など
- ・ 院内スタッフの教育  
 抗菌薬適正使用に関するセミナー実施など

